

私たちは今人類の歴史に残るような一大事に遭遇しています。それは、国家や人種地域を問わず感染力の強い新型コロナウイルスという主に飛沫感染する強力な流行り病です。

私の父と祖父はブランドバックや宝石の卸小売業の小さな会社で働いています。仕事の他に消防団員として地域のためにも活動しています。今年二月、祖父が夕食の時「博多どんたくが中止になるかもしれない、大事な会議も今後は書面会議になるやろうや。」と言っていました。私には何のことだか分かりませんでした。四月には東京のデパートで行われる展示即売会があり、私が生まれる前から参加していたそうです。毎月父は二週間ほど出張するのですが今年は中止になったと三月に聞きました。東京や大阪デパート催事は会社の主力事業だそうで「今年は厳しい決算になるね」と父が祖父に話していました。

三月に入ると春休みがそのまま延長されて受験生の私は新学期が始まらず、勉強のことなどだんだん不安になってきました。

四月、安倍総理大臣の緊急事態宣言で我が家も大きく変わりました。会社は三月下旬から閉店になったそうで家族はみな自粛生活になりました。四月下旬に父がパソコンとにらめっこ、国が国民全員に一人につき十万円を振り込むとの情報でした。「私も貰える」と嬉しそうに言う。母から即座に「貴方たちの分は私が管理します」と言い返されました。オンライン申請で五月中旬には振り込まれたそうです。その後、売り上げが昨年と比べてダウンした会社には持続化給付金制度があるとのことで、父は手続きに入っていました。必要な書類を色々揃えるなどかなり大変だったと後から聞きました。

一億二千万人有余の国民に振り込まれた特別定額給付金だけでもネットで調べてみると十二兆八千八百億円や持続化給付金をはじめとする数々の関連経費は新型コロナウイルス感染症緊急経済対策として莫大な金額で中学生の私にはとても想像できない金額です。これらの給付金は、税金から出されています。もし、税金を納めなくていい世界だったら、今以上に深刻な状況になっていたはず。普段から税金にはお世話になっていますが、今回の新型コロナウイルスのことで改めて税金は大切だということを知りました。

税金は国民の命と経済を守るために使われているお金だと思います。今、私が税として払えるのは消費税ですが、大人になると様々な税を納めなければいけません。私も父や祖父のように期限内にしっかりと納税できる大人になれるよう努力していきたいです。